

たまのよこやま



ニュータウン最後の発掘調査
— No.446 遺跡の調査 —

● 遺跡だより 78

● くろがね物語(九)

● 広報室だより

● 2007年度 行事案内

多摩ニュータウンNo.446遺跡は、八王子市堀之内地区、京王相模原線「京王堀之内駅」から北へ徒歩約15分の距離にあり、多摩川の支流の大栗川おおくりがわに向かって張り出す丘陵の比較的緩やかな南斜面に位置します。

本遺跡の調査は、1988年から過去6回行っています。今回の第7次調査の現在までの主な成果は、縄文時代中期後半と古墳時代の終わり、平安時代の集落跡の発見です。その成果の一部については、昨年の11月12日に現地説明会を開催して一般市民の方々に見ていただきました（表紙の写真をご覧ください）。当日は地元の方々をはじめとして300名近くの皆様の参加をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今回は、その後の調査成果から主に縄文時代の集落跡に焦点を当てて紹介します。

今回発見された縄文時代の集落跡は、中期後半（今から約4500年前）に営まれたものです。考古学の時間のもので言えば「加曽利E式土器」・「連弧文土器」が使われた時代です。

現在までの調査では、集落跡から竪穴住居跡が19軒見つかっています。最終的には、もう数軒増えるものと思われます。この19軒という規模は、比較的小さな集落と言えます。それに応じて、集落の存続期間も比較的短く、おそらく100～150年くらいであったと思われます。この中期後半の集落構成について、もう少し詳しく紹介しましょう。

集落内の住居跡群は、3～5軒で1つにまとまり、4つのまとまりが円形に巡る配置となっています。この4つのまとまりは、一体何を意味するのでしょうか。今までの研究成果によれば、住居跡群がまとまる現象は、それぞれのまとまりが親戚関係や出身地の違いを意味すると言われています。実際に本遺跡の住居跡の中からは、多摩地域で盛んに使われた加曽利E式や連弧文土器の他に山梨県に多く分布する「曾利式」という土器が出土しており、No.446遺跡のムラが他地域との交流をしていたことは間違いありません。今回の住居跡の配置をどう読み取るのかは、重要な検討課題です。

また、本遺跡と多摩ニュータウンNo.72遺跡との関係も重要な問題です。No.72遺跡は、縄文時代中期前半から後半にかけて270軒を超える住居が建てられた多摩地域有数の大規模集落跡です。No.446遺跡とNo.72遺跡は、200mほどの距離しか離れていません。両遺跡の出土土器から判断して、No.446遺跡のムラとNo.72遺跡のムラが同時に存在した可能性は、非常に高いものと考えます。お互いに手を振れば見えるほどの近い距離に、なぜ2つのムラが作られたのでしょうか。これが最大の謎であり、No.446遺跡のムラを語る上での最大のキーポイントとなることでしょう。

多摩ニュータウン遺跡としては、おそらく最後の調査となるであろうNo.446遺跡の調査は、これからいよいよ終盤にさしかかります。日々新たな成果が積み重ねられていますが、紙面の関係上、今回の紹介はここまでとさせていただきます。他の調査成果につきましては、2月24日に当センターで開催の発掘調査発表会にて紹介いたしますので、多くの方々のご参加をお待ちしております。

（山本孝司）



縄文時代中期後半の住居跡



連弧文土器



曾利式土器

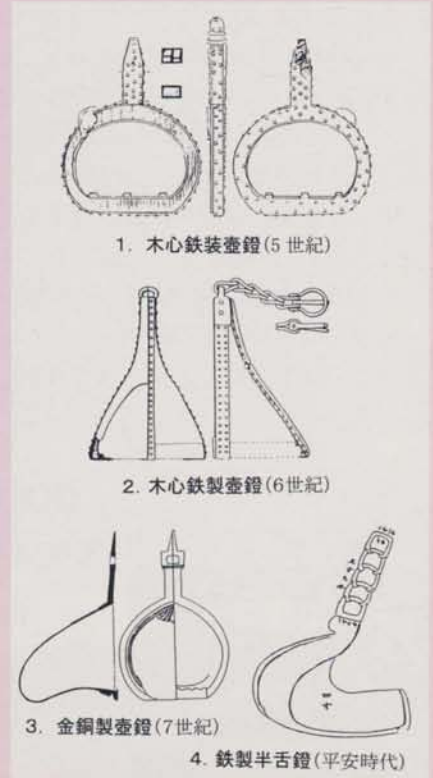


石で囲んだ炉

古代の馬具<下>

今回は^{あぶみ}鐙について紹介します。鐙は、馬上で姿勢を保つために用いられたもので、鞍に結んで固定されます。日本では、5世紀前葉には「輪鐙」といわれる木心鉄板張りのものが出現します。この鐙は一見、つり革を連想させるシンプルなつくりをしており、大陸からの輸入品でした。6世紀以降、倭風の^{つばあぶみ}「壺鐙」が製作されるようになり、日本各地に普及します。このことは、列島での馬の飼養が拡大したことと比例する現象と思われるます。壺鐙には三角錘形の木製と金属製の杓形がみられますが、後者の方が新しい形式です。これらの鐙は、足を入れる部分が広くなり、踏ん張りがきく構造に発展しています。この他に、木の片側を削り抜いて作った木製壺鐙があり、本体を鞍に連結するための付属品が古代集落からも検出されています。10世紀頃の多摩ニュータウンNo.248遺跡の堅穴建物跡（鍛冶工房）からは、鐙に連結するコの字形金具・兵庫鎖・鉸具などが出土しており、この堅穴内で鐙の製作ないし修理が行われたことが想像されます。平安時代後期には、「半舌鐙」と呼ばれる騎馬戦に適した鐙が登場し、11世紀に書かれた『新猿楽記』には、特産品として「武蔵鐙」の名が見られます。この頃、武士団の勃興により、東国において鐙の改良が図られた可能性があり、鐙の出現が西洋中世における騎士階層を生み出したとする見方もあり、物質文化が歴史に与えた影響の大きさがうかがえます。

(松崎元樹)



鐙の変遷

(増田精一「日本馬事文化の源流」より)

広報室だより

縄文時代の編布編み上級編開催

今年の10月、数年前から行っていたあん編ぎん布教室の上級編を開催しました。これまでの教室では、市販の麻糸を使用してコースター程度のを編んできましたが、今回は糸作りから始めて、「ソデナシ」と呼ばれている縄文時代の衣服を一着編もうという計画のものです。希望者を募集したところ30名もの応募があり、全員で作業に入ることになりました。まずはじめに、糸の素材となる「カラムシ」と「クズ」を8月末に刈り取り、1ヶ月程乾燥させた後、木槌でたたき、草の表皮から糸の素材となる繊維を抽出しました。この段階では、同じような幅でいかに長く質のよい繊維を取るかがポイント。さらにそれによ燃りをかけ糸とします。今回は^{たていと}経糸にクズを^{よこいと}緯糸にカラムシを使用。それぞれの長さは経糸で56m、緯糸で150mが必要という数字が出ていましたので、30人全員で紙縫りを作る要領で1本1本燃り上げていきました。この作業が予想以上に大変。後半は復原した紡錘車や糸車も使用して5日間かけてなんとか必要な本数を確保しました。糸さえそろえばあとはいつもの編布台3台を使って順番に編みこみ。編みこみ作業は順調に進み、仕上げの1日を加えて5日間で見事に完成。参加延べ人数100名、制作期間延べ10日。お手伝いいただいた30人の方々本当にご苦労様でした。

完成したソデナシは4月以降展示場に展示し、見学者に試着していただく予定です。(広報)



カラムシとクズの繊維



編み込み作業



完成

2007年度 企画展示のお知らせ

今年度は「縄文生活」をテーマに1年間の企画展を開催します(3月17日オープン予定)。
縄文時代の人々は一体どのような暮らしをおくっていたのでしょうか。最近の考古学の発掘成果から、1土器の匠、2石の道具、3編物と装飾、4交流と交易の4つのテーマに分けて当時の生活の様子を探っていく予定です。きっとそこからは、当時を生き抜いていくための「知恵」と「技」がよみがえってくると思われまます。

展示コーナー以外では、縄文生活を体験できるコーナーも用意しています。実際に触れて、見て、当時の生活を体感してみてください。また、企画展に合わせたビデオなどもそろえております。学校の授業やセンターの見学の際には是非ご鑑賞ください。

下の表は4月から1年間分の行事等のご案内です。事前申込みが必要なものもありますので、ご確認のうえ奮ってご参加ください。



2007年度 広報・普及事業のご案内

(一般は中学生以上)

行事名	対象/人数	日	時	備考(月日は締切日)
文化財講演会	120名	① 5/19(土) ② 6/20(水) ③ 9/19(水) ④ 12/15(土) ⑤ 1/16(水) ⑥ 2/23(土)	14:00~16:00	無料
文化財講座	120名	① 11/6(火) ② 11/7(水) ③ 11/8(木)	14:00~16:00	無料
発掘調査発表会	120名	① 3/22(土)	13:00~16:00	無料
展示説明会	参加自由	4/14(土)	午前の部 10:00~ 午後の部 13:30~	無料 1時間程度
縄文土器作り教室	①④一般30名 ②③親子15組	制作 ① 5/3・4(祝) ② 7/26(木) ③ 7/27(金) ④ 10/6・7(土・日) 野焼き ① 6/2(土) ②③ 共 8/10(金) ④ 11/10(土)	制作 9:30~16:00 野焼き 9:30~15:30	往復はがきで申込み ① 4/16(月) ②③ 7/13(金) ④ 9/14(金) 参加費 一般500円 親子300円
勾玉作り教室	①③④30名 ②親子15組	① 5/26(土) ② 8/22(水) ③ 10/20(土) ④ 1/26(土)	9:30~12:00	往復はがきで申込み ① 5/11(金) ② 8/10(金) ③ 10/10(水) ④ 1/15(火) 参加費 300円
耳飾作り教室	①③④30名 ②親子15組	① 5/26(土) ② 8/22(水) ③ 10/20(土) ④ 1/26(土)	13:30~15:30	往復はがきで申込み ① 5/11(金) ② 8/10(金) ③ 10/10(水) ④ 1/15(火) 参加費 300円
編布(あんぎん)作り教室	①③30名 ②親子15組	① 6/23(土) ② 8/18(土) ③ 11/23(祝)	①② 9:30~11:30 ③ 13:30~15:30	往復はがきで申込み ① 6/11(月) ② 8/10(金) ③ 11/12(月) 参加費 300円
貝輪作り教室	30名	①② 9/22(土) ③ 11/23(祝)	①③ 9:30~11:30 ② 13:30~15:30	往復はがきで申込み ①② 9/14(金) ③ 11/12(月) 参加費 300円
考古学実習① — 古代食体験 —	20名	5/3(祝) 5/4(祝) 6/2(土)	10:00~16:00	往復はがきで申込み 4/16(月) 参加費 300円
考古学実習② — 火おこし体験 —	親子15組	8/4(土)	午前の部 9:30~11:30 午後の部 13:30~15:30	往復はがきで申込み 7/13(金) 参加費 300円
考古学実習③ — 縄文食体験 —	一般10名 親子10組	10/27(土)	10:00~13:00	往復はがきで申込み 10/10(水) 参加費 300円
夏休み考古学相談室	小・中学生	夏休み期間中(土日は除く)	10:00~16:00	無料

